

(件名) タイ国内最大級の総合食品見本市「THAIFEX 2022」について

今回は、バンコク近郊北部のノンタブリー県で開催された「THAIFEX 2022」を視察しましたのでご紹介します。

1 「THAIFEX 2022」の概要について

「THAIFEX」は、東南アジアをはじめとする世界各国から来場者が集まるタイ国内最大級の総合食品見本市です。2022年は5月24日(火)～28日(土)の5日間の日程で開催され、50,000人以上の来場がありました。

出展者は36の国と地域から1,600社程度参加しており、JETROが設置したジャパンパビリオンでは日本から18社が出展していたほか、ジャパンパビリオン以外でもタイに既に現地法人を構える日系企業が多く出展していました。



会場の様子 (撮影：筆者)

2 視察結果について

施設内は取扱商品によって大きく以下の4つのセクションに分けられており、生鮮品から冷凍食品、外食、食品加工機械にいたるまで幅広く紹介されていました。

| | |
|--------|--------------------------|
| セクション1 | コーヒー&ティー、ドリンク、外食、食品加工機械 |
| セクション2 | 製菓、肉、冷凍食品 |
| セクション3 | 野菜、青果、米、水産物 |
| セクション4 | 加工食品、健康食品、各国パビリオン、輸出入業者等 |

多くのブースで試食や実演販売などが行われており、コロナ前さながらの盛り上がりを見せていました。来場者はタイ人を中心に欧米人や日本人、中東アラブ系など多種多様な人が数多く訪れており、会場は大変混雑していました。

特に人が多く集まっていたのはセクション2の肉製品エリアであり、タイで比較的よく食べられる鶏肉や豚肉だけではなく、牛肉の取扱も数多くありました。

そのほかCPやベタグロなどのタイ大手企業を中心にプラントミートが多数展開されており、注目が集まっていました。私も試食しましたが、味や風味は肉に似ているものの、食感は大豆やおからに近く、代替品というよりは全く別の異なる商品という印象でした。富裕層を中心に、ヴィーガン料理や糖質制限された料理など健康志向が高まっているタイでは、プラントミートがトレンドになる日も近いかもしれません。



プラントミートはすでにブランド化されており、商品が多数展示されていた (撮影：筆者)

3 ジャパンパビリオンについて

ジャパンパビリオンは農林水産省の補助事業としてJETROが主催しており、日本産食品を国際的にアピールするとともに日本企業の輸出拡大を支援する目的で設置されていました。出展企業は、牛肉や水産物、調味料、健康食品等タイ側バイヤーからの引き合いが特に見込める品目を扱う事業者を中心に全 18 社が出展しており、なかには北海道産品を扱っている道外企業もありました。また多くの企業はこれからタイへ進出するために、市場調査やテスト販売を目的としているようでした。

今回、道内企業の出展はありませんでしたが、上記のようなタイ側バイヤーの引き合いが見込める品目を扱っている方は、このようなイベントを活用され、一度タイへの進出を考えてみてはいかがでしょうか。出展してみることで現地タイ人の新たなニーズを発掘できたり、進出への足掛かりができたりなど新たな販路拡大の可能性が見えてくるかもしれません。また現在、引き合いが見込みづらい品目でも、タイでまだ広く普及していない商品などは今後引き合いが見込まれる可能性があります。

JETROでは、バンコクを含む海外のいくつかの拠点でサンプルショールームを設置し、現地バイヤーへ日本産品の紹介を行い、引き合いがあった際に日本企業と面談を設定するオンライン商談会を定期的実施しています。上半期の申込締め切りは6月22日となっていますが、下半期は9月頃に募集を開始する予定となっていますので、海外への販路拡大に興味がある方はこちらも活用してみてはいかがでしょうか。JETROのホームページをご確認ください。https://www.jetro.go.jp/services/sample_showroom_2022.html



ジャパンパビリオンの様子（撮影：筆者）



昨年度バンコクに設置されたサンプルショールームの展示の一部（撮影：筆者）